

令和2年お茶づくり技術情報 (No.3)

2020年(令和2年)3月27日
佐賀県茶業技術協会
佐賀県茶業試験場

1. 気象と生育

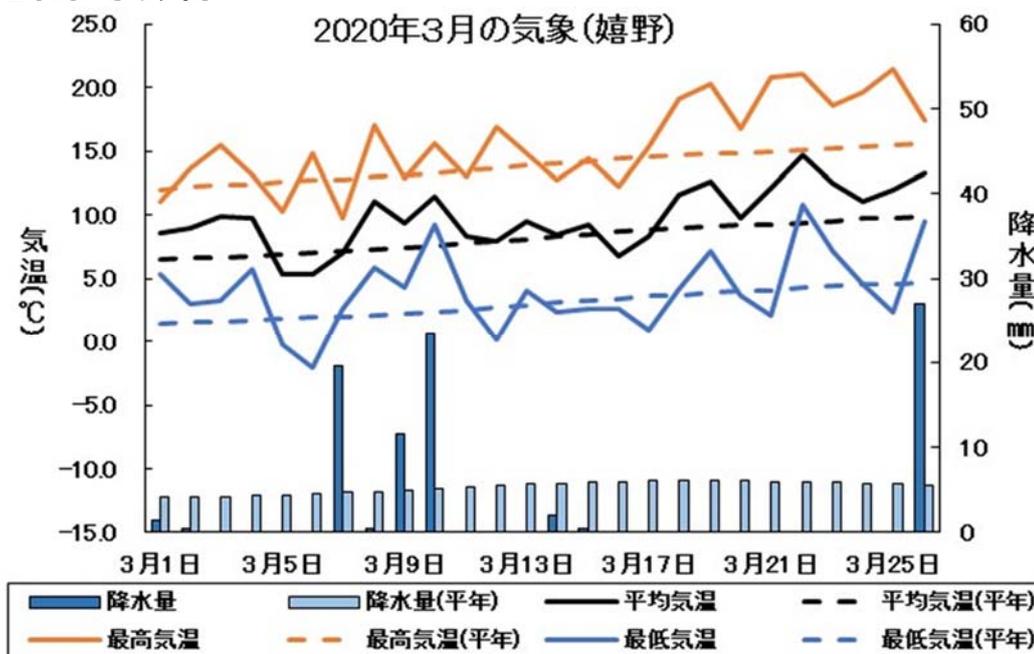
1) 一番茶の萌芽

茶業試験場内の作況調査園(定点調査園、品種:やぶきた)において、2020年3月27日に一番茶の萌芽を確認した。本年の萌芽日は、前年(3月28日)より1日、前3か年平均(4月3日)より7日早い。



写真 作況調査園の越冬芽(3/27撮影、品種:やぶきた、樹齢:19年生)
(左:頂芽 右:側芽)

2) これまでの気象



- (1) 3月の気温は、中旬は平年並、上下旬は平年より高く推移した。
- (2) 3月の降水量は、上旬はまとまった降雨があり、平年より多かったが、中旬以降、ほとんど降雨がなく、下旬にまとまった降雨があった。

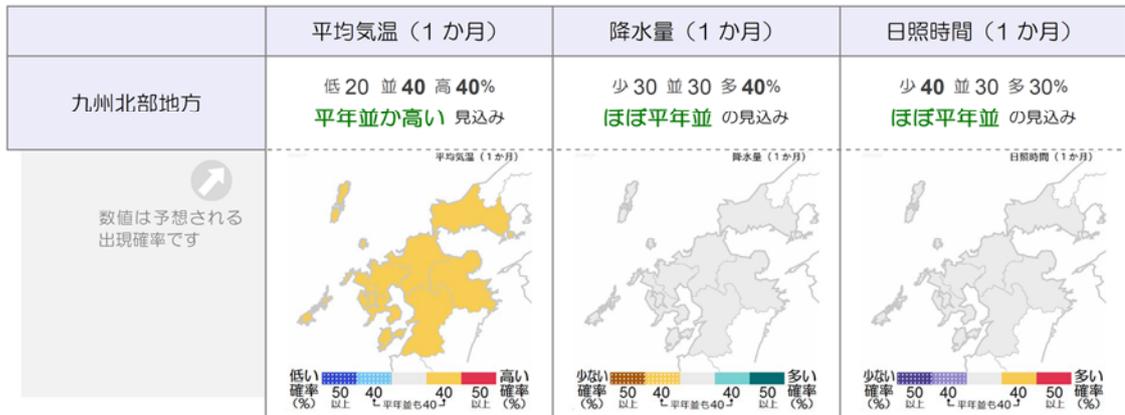
3) 今後の気象の見通し

向こう1か月の天候の見通し 九州北部地方 (3月28日~4月27日)

福岡管区気象台

1か月予報 (令和2年3月26日発表)

1か月の平均気温・降水量・日照時間

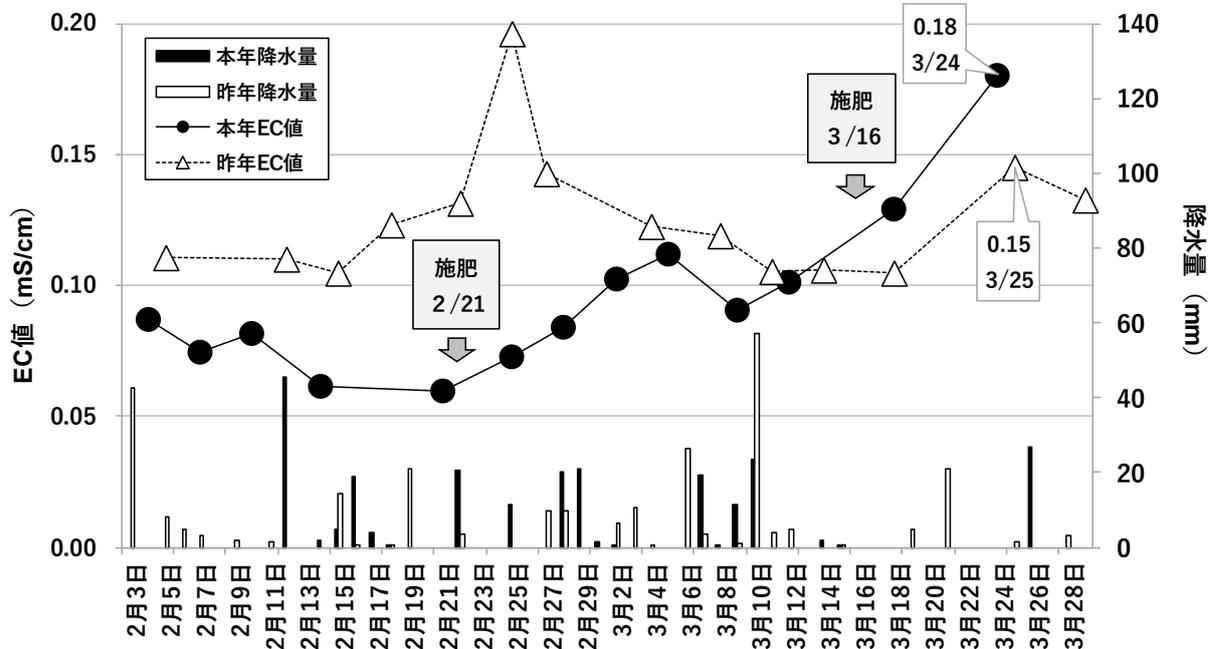


- (1) 向こう1か月 (3月28日~) の天候は、平均気温は平年並か高い、降水量はほぼ平年並となる見込みである。

2. 今後の管理

1) 施肥管理

試験場作況調査園の土壤 EC 値と降水量の推移 (2019、2020 年)



- (1) 試験場内の土壤 EC は、施肥後、気温の上昇と適度な降雨により徐々に上昇した。3月15日以降、10日間降雨がなかったものの、最新の EC 値は 0.18 (3月24日測定) と前年よりやや高く推移している。(佐賀県土壤診断基準による3月~4月の目標値は 0.2~0.4)。

- (2) 芽出肥は一番茶摘採の 30～40 日前を基本とし、施肥後は土壌と混和する。
- (3) 分施する場合には最終施肥として速効性肥料（硫安など）を摘採 14 日前頃（2 葉期）に行う。干ばつ時には施肥後の灌水や液肥が効果的である。
※液肥の施用法：窒素含有量 10%程度 of 資材を用いて、希釈倍率 400～500 倍で、2 t /10a を目安に行う。

2) 被覆

- (1) 遮光率 70%程度で、穴・汚れ・異臭のないものを使用する。
- (2) 被覆開始時期は、2.5～3.0 葉を目安とし、期間は 10 日間程度とする。
※極端な若芽への被覆は減収しやすいため避ける。
- (3) 被覆管理後は、風による煽りや擦れによる葉傷みが発生しないように、資材の固定を確実にを行う。
- (4) 被覆資材の除去は、摘採当日の早朝が望ましく、なるべく日光にあたる時間を少なくし、色戻りを避ける。除去時は上に持ち上げるように外し、葉を傷めないようにする。

3) 病虫害対策

病虫害防除については、『令和 2 年度佐賀県施肥・病虫害防除・雑草防除のてびき』を参照してください。